

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2022



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compounds)インキ
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり
ません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて
います。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で
印刷しています。

フジトランス コーポレーション

本社
〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111(代) FAX:052-652-7110
<https://www.fujitrans.co.jp/>

2022年6月発行

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY
REPORT
2022



| | |
|--|---|
| <p>01 編集方針</p> <p>02 会社概要</p> <p>03 事業所一覧</p> <p>04 事業ハイライト</p> <p>05 Top message</p> <p>07 企業理念 フジトランス サステナビリティ ビジョン2050 推進体制</p> | <p>08 社会 基本的な考え方 安全・品質 方針 推進体制 安全作業に向けた取り組み</p> <p>10 社会貢献</p> <p>11 健康 方針 具体的な取り組み</p> |
|--|---|

| |
|--|
| <p>12 環境 基本的な考え方 方針 環境マネジメントシステム 環境保護の実践</p> <p>14 環境データ</p> |
|--|

編集方針

「フジトランス サステナビリティ レポート」は、フジトランスグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み内容をまとめた資料です。事業に直接関連する内容の他、SDGsやCSRに関する内容も網羅しています。

| | |
|---------------|---|
| 対象期間 | 2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日) 一部、2021年度と連続する活動内容などを含む |
| 報告サイクル | 年次報告として毎年発行 |
| 発行 | 2022年6月 |
| 報告範囲 | 株式会社フジトランス コーポレーションおよびグループ会社の取り組み |

会社概要

当社は1952年に名古屋市港区で創業した創造的総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船会社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車輦・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んできました。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などへと業容を拡大しました。今では北米、欧州、東・東南アジアに法人を置き、物流サービスを展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

| | |
|-------|---|
| 名称 | 株式会社フジトランス コーポレーション (FUJITRANS CORPORATION) |
| 本社所在地 | 〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号 |
| 設立年月日 | 1952(昭和27)年9月29日 |
| 資本金 | 2億円 |
| 代表者 | 代表取締役社長 系井 辰夫 |

| | |
|---------|---|
| 主たる営業種目 | 港湾運送事業、内航海運業、貨物利用運送事業、航空運送代理店業、通関業、倉庫業、梱包事業、海上運送業 他 |
| 従業員数 | (単体)1,355人 / (グループ)4,223人 |
| 連結子会社数 | 35社(2021年度) |

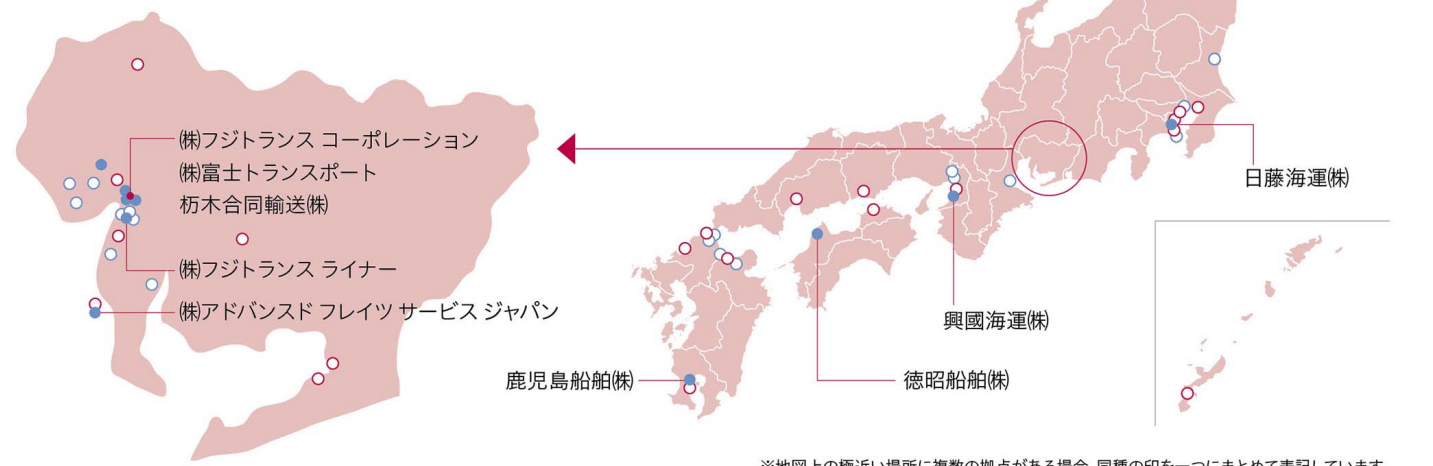
事業所一覧 Locations

(2022年3月末現在)

| 地域 | 国 | 事業所数 | 従業員数 |
|-----|---|------|--------|
| 北米 | アメリカ、カナダ | 8 | 56人 |
| 欧州 | オランダ、チェコ | 2 | 306人 |
| アジア | 日本、中国、シンガポール、タイ、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム | 99 | 3,861人 |

計12カ国

- フジトランスコーポレーション 本社
- グループ会社 本社
- フジトランスコーポレーション 拠点
- グループ会社 拠点



※地図上の極近い場所に複数の拠点がある場合、同種の印を一つにまとめて表記しています。

[国内グループ会社]

- (株)厚真ファーム
- (株)エフティファーム
- (株)まるしん運輸

事業ハイライト (2021年度)

2021年4月

サステナビリティ推進室 設置

(株)フジトランス コーポレーションが、新組織としてサステナビリティ推進室を設置しました。SDGsが国連で採択され、国際的に関心が高まっている状況を踏まえ、当社が取り組むべき課題を認識し、社会課題の解決に取り組むのが目的です。

2021年12月

FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. 新規RO/RO船 就航

FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. が、自社RO/RO船「PEARL ORIENT」を就航させました。乗用車800台・シャーシ100台を積載可能な「PEARL ORIENT」は、ルソン島バタンガス～セブ島～ミンダナオ島ダバオを週一便運航します。乗用車の他、建設機械や一般貨物の輸送が可能です。バタンガス～イロイロ～パコロド～セブ～カガヤン・デ・オロに就航中の「PEARL ASIA」に次ぐ2隻目の投入により、島嶼群から成るフィリピン国内の物流に貢献します。また、新規航路開設に合わせてミンダナオ島ダバオ港にDAVAO BRANCHを開設しました。



[海外グループ会社]



より良い社会の実現を目指して

代表取締役社長 系井辰夫

創立70周年を迎えて

㈱フジトランスコーポレーションは、2022年9月に会社創立70周年を迎えます。これまで社業を伸長することができましたのは、ひとえにお客さまをはじめ関係先の皆さまのご支援とご愛顧の賜物です。心より厚く御礼申し上げます。

この70年の間に、社会は大きく変わりました。われわれの事業領域も同様に大きな変化を繰り返しています。コンテナの登場で物流の規格化・効率化が進み、モータリゼーションと高速道路網の整備が陸上輸送を発展させ、IT技術の発展が情報の量と速度を格段に向上させました。荷量の増加も輸送スピードの向上も、70年前とは比較にならないほどです。



そして、変化は今なお続いています。世界規模でのパンデミック、DXの推進に伴う産業構造の変化、終わりの見えない国際紛争、その他さまざまな要素が絡み合い、事情をより複雑で将来を予測しにくい不透明な状況にしています。

カーボンニュートラルへの対応

VUCA時代*と呼ばれる現代において、考慮すべき重要な要素の一つが地球温暖化の問題です。1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた国連環境開発会議(通称:地球サミット)をはじめ、化石燃料の利用と大気汚染の影響は長く議論されてきました。しかし、CO₂の削減のためエネルギー問題に大きく踏み込み、各国が共通目標を掲げ、生産者・消費者双方にここまで認知が進んだのは、わずかここ2、3年のことではないでしょうか。

この問題は、当社にとっても重要な意味を持ちます。当社が運航する船舶や荷役車輛、荷役機器も、化石燃料や、化石燃料を使って発電した電気で動かしています。しかし、これらの燃料は今やCO₂排出量の多い「古いエネルギー」というレッテルを貼られています。16世紀ごろから使われ始め、より効率よくエネルギーを取り出すよう研究が進められてきましたが、人類は遂に化石燃料に頼らない社会に移行しようとしています。とはいえ、過去何世紀にもわたって使われてきたエネルギーを急に別のものに代えることは容易ではありません。各国では再生可能でクリーンなエネルギーの研究が進められているもの

の、現在の化石燃料と同様に普遍的なエネルギーとして世界中が利用できるまでになるには、10年単位の時間が必要でしょう。それでもわれわれは省エネ運航や効率化など、打てる手を積極的に打っていかねばなりません。

脱炭素に向けた動きは、企業レベルだけでなく社会規模で盛んになっています。一例として、国土交通省が中心となって「カーボンニュートラルレポート」の形成に関する検討を進めています。カーボンニュートラルレポートとは、エネルギーの輸送・貯蔵・加工などの重要拠点である港湾で脱炭素化を図るとともに、次世代エネルギーの取り扱いに向けた環境整備を行う取り組みです。港湾部とそこに接続する臨海部は日本の産業の中でもCO₂排出量が大きく、排出量の削減効果が高いとされています。当社の事業基盤である名古屋港もカーボンニュートラルレポートの対象に指定されていて、次世代エネルギーの一つとして期待されている水素の利活用に向けた議論が行われています。当社もこうしたインフラ側の動きと連携して、CO₂を効果的且つ早期に削減できるよう歩調を合わせてまいります。

SDGsを経営課題に

地球温暖化以外にも、貧困や飢餓、不平等などさまざまな問題が山積みです。こうした問題を明文化し、国際的な共有を図ったのがSDGsです。SDGsは地球と人類の存続のための社会的な目標です。学校教育にも取り入れられるなど、今や多くの人々が認識しています。そして、SDGsに取り組んでいるかどうか社会的評価につながる世の中になりつつあります。

こうした時代背景を踏まえ、当社は昨年、SDGsの達成に向けた方針として「フジトランス サステナビリティビジョン2050」を策定しました。社は「『和』の精神」に則り、当社グループの事業領域において取り組む

内容を4つのマテリアリティにまとめています。

その一環として、CSR活動で長年実践してきた環境保全にも継続して取り組みます。当社は船を運航する海だけでなく、海につながる河川、そしてさらにその上流で河川に養分を供給する山林までを事業に関連するフィールドと捉えています。資源の枯渇を防ぎ、環境汚染が進行しないよう、これからも地道な活動を続けていきます。

当然のことですが、社員もステークホルダーであり、企業と社会を構成しています。会社の人材である社員がやりがいを持って業務に注力し、活躍できるように、そして充実した生活を送れるようにすることも企業の義務です。多様な働き方ができる制度設計や福利厚生の実施、DXを含むIT基盤の拡充など、働きやすい職場環境をつくることもSDGsが目指す世界の実現につながります。

持続可能な社会への貢献

私たちの仕事は、世界中に荷物を運ぶことです。しかし、お届けしているのは荷物だけではありません。物流によって価値を創出し、荷物が届くことで生まれる喜びや希望も一緒にお届けしているのです。生産者と消費者をつないで社会に豊かさをもたらす、送る方と送られる方の思いを結ぶことが私たちの使命であり存在意義です。

これからもグループ全体で一致団結し、荷物一つ一つに真摯に向き合い、物流を止めないよう誠実に取り組んでまいります。そして、80年、100年、またその先の未来に向けて、チャレンジを続けていく所存です。

*VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)の頭文字をとった造語。事態を取り巻く環境が複雑になり、将来の予測が困難な状況を指す。

企業理念

Corporate philosophy

フジトランスグループは、国連が推進するSDGsの考えに賛同し、持続可能な社会の形成に貢献するため、経営理念に基づいて注力すべき重要課題を4つに絞り込みました。そして、これらを長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」としてまとめ、2050年を目標達成年としました。当社グループが社会・環境と共に持続的に成長・発展していくための指針です。

[経営理念]

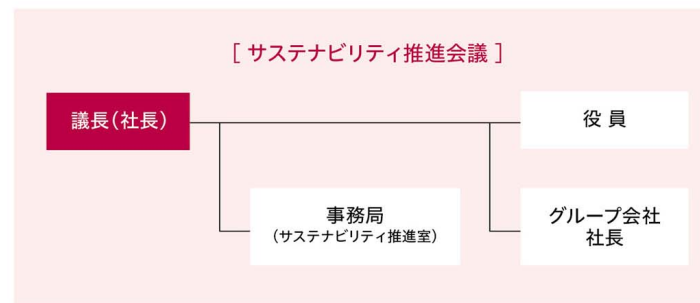
- 1 誠実で公正な企業活動を通じ、社会から信頼される企業を目指す。
- 2 安全で高品質な物流システムの開発に努め、お客さまに魅力あるサービスを提供する。
- 3 つねに経営の革新に努め、あらゆる分野へ挑戦し、持続的に発展成長する。
- 4 地球に感謝し、環境にやさしい活動を実施し、社会・地域に貢献する。
- 5 相互信頼、共通認識を基本とし、社員とその家庭に安らぎを与える企業風土をつくる。

フジトランス サステナビリティ ビジョン2050

| | 由来する経営理念 | 関係するSDGsの目標 |
|--|------------|--|
| 脱炭素社会の実現 物流は、私たちの暮らしと経済活動にとって大切な機能の一つです。その役割を果たしながら、地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガス、とりわけCO ₂ を削減し、カーボンニュートラルの達成に貢献します。 | 1 2 3 4 | 7 再生可能エネルギーを拡大して気候変動に 9 産業と資源効率の改善を通じて 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を |
| 環境保全と資源の循環利用の最大化 事業活動で利用する資源を低減し、排出するごみを削減します。環境負荷の低い事業活動を心掛け、森林や海洋の環境も適切に保全します。 | 3 4 | 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくば未来 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう |
| 健康経営による働き方改革の促進 従業員にとって、健康的で働きがいのある職場を確保します。また、多様な働き方に配慮し、安定的な雇用を維持します。 | 1 5 | 3 持続可能な消費生活 8 働きがいや経済成長を |
| SDGs関連の新たな収益モデルの確立 世界各国で、地球規模の共通目標であるSDGsの達成に向けたさまざまな取り組みが進められています。お客さまのこれらニーズに応え、新たな物流を創造・提案し、従来にない事業に着手し、今までにない積極的な取り組みを創出します。 | 2 3 | 8 働きがいや経済成長を |

推進体制

社会的に関心が高まるSDGsをグループ共通の課題と捉え、対応するために、グループの経営者で構成する「サステナビリティ推進会議」を立ち上げました。サステナビリティに関するさまざまな情報を共有し、取り組みを協議しています。会議は四半期ごとに開催し、社内の指標や方向性の確認、有識者の講演による基礎知識や最新情報の共有などを行っています。



社会 Society

基本的な考え方 フジトランスグループは、物流事業を通じて社会のインフラとしての役割を担います。

安全・品質

方針

品質方針

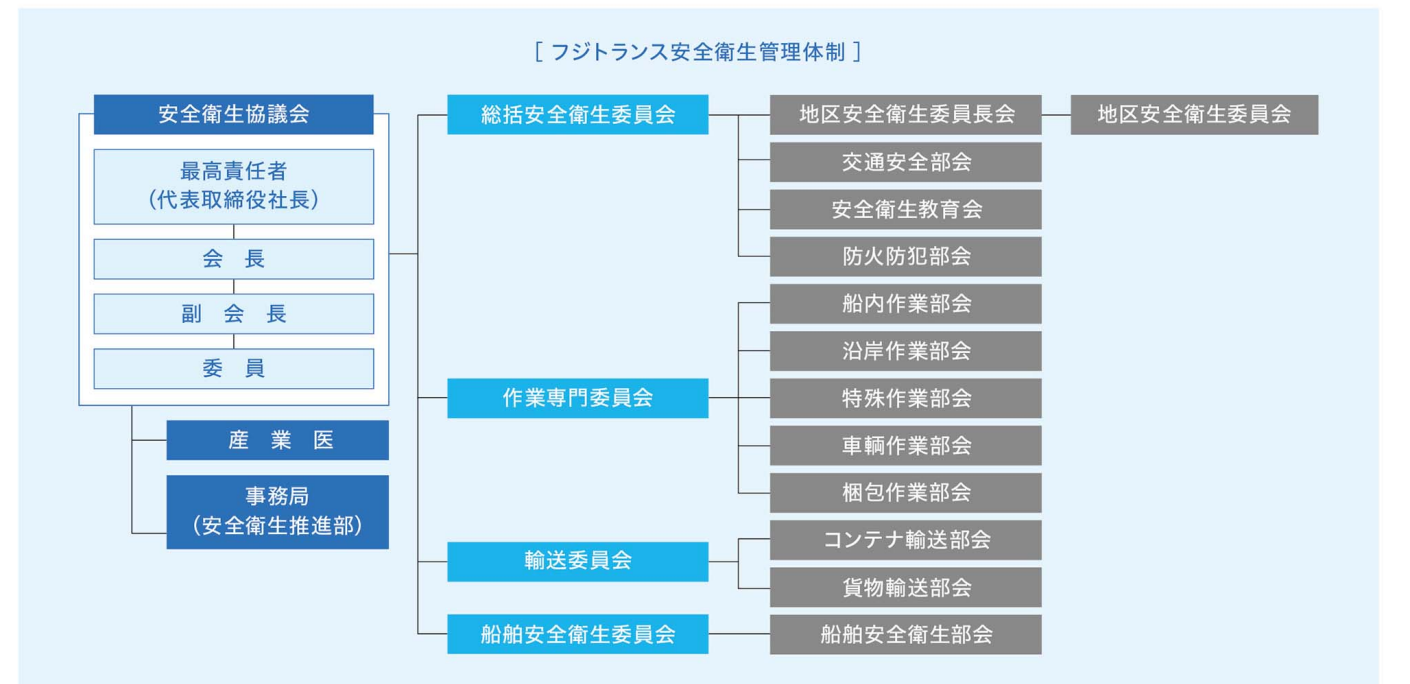
- 1 お客さまよりお預かりした、大切な軽量貨物から航空宇宙機器までを総合輸送（陸上・海上・航空）するプロ集団企業として、更なるIT化を図り、お客さまのニーズに適したロジスティクスサービスを提供する。
- 2 お客さまとの合意事項およびISOの規格並びに法令・協定等の要求事項を遵守して、誠実で公正な企業倫理に基づいた事業活動を展開する。
- 3 品質活動を有効に推進するために、自主的な物流システムの改善計画を策定し、継続的且つ発展的な維持を図る。
- 4 品質並びに安全・環境への徹底した配慮を業務遂行の基本とし、社員全員の知識と技能を向上させるために、適切な教育を実施して啓発を図る。
- 5 フジトランスグループおよび協会社と共通認識のもと、お客さまとの良きパートナーシップを通じて、相互コミュニケーションを図り、お客さまと共にグローバルな視点で輸送の明日を構築する。
- 6 重点項目目標 『安全を優先し、人身・物損事故、納入遅延、誤出荷 ゼロ件』

船舶安全運航方針

- 1 海上輸送に関わる関係法令等の遵守、および自社で定めた安全管理規程の遵守を徹底する。
- 2 海上輸送に携わる社会的責任を認識し、海陸が一体となって安全最優先の原則を徹底する。
- 3 船舶運航の安全管理体制を適切に維持管理すると共に、継続的な改善の実施により、更なる安全運航を目指す。
- 4 安全運航に関する教育および訓練の実施により、海陸の安全意識の向上を図るとともに、適切な危機管理を推進する。
- 5 安全・安心で環境に優しい海上輸送サービスの提供を目指し、日頃から積極的な安全活動の推進および環境負荷の低減に取り組む。

推進体制

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。そして、安全の徹底はお客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることに通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。



安全作業に向けた取り組み

熱中症予防キャンペーン

毎年5月から9月までの間、「熱中症予防キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、熱中症の症状を理解し、定期的に水分や塩分を摂取するなどの対策を浸透させる取り組みです。

各事業所では、期間中に啓発ポスターを掲示したり、熱中症予防に関する映像教材を使って教育したりして、社員に注意を促しています。また、経口補水液や瞬間冷却材などの熱中症予防グッズを配付しています。



「ゼロ災」キャンペーン

安全衛生協議会主催で、全国の事業所を対象に年2回「『ゼロ災』キャンペーン」を行っています。「全ての事故ゼロ」を目標に従業員一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場づくりを目的とした全社員参加の活動です。

キャンペーン中は、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを行いました。また、全社員がキャンペーンのワッペンやシールを身に付け、普段以上に安全に配慮しました。



上期スローガン

プロの技 確認作業・基本作業に手抜きなし

下期スローガン

油断するな! 無理するな! 異常な時はすぐ止める!

輸送職域 安全教育

(株)フジトランス コーポレーションと(株)フジトランスライナーの安全衛生推進部が、グループ関連会社の輸送職域における安全意識と技術を向上させ、平準化を図るため、各社に講師役を派遣して教育しています。

教育プログラムは、座学と添乗教育の2部制で行います。座学では、関係法令と各自の役割を再認識し、ドライブレコーダーの映像を利用して危険予知などについて理解を深めます。添乗教育では、講師役が助手席に乗り、運行時の安全運転や安全確認について助言・指導しました。



フォークリフト安全運転強化キャンペーン

作業専門委員会が毎年、「フォークリフト安全運転強化キャンペーン」を催しています。フォークリフト作業従事者の運転操作を確認し、作業中の事故を未然に防ぐために、教育・訓練を徹底する活動です。

また、キャンペーンの一環で、フォークリフト運転従事者が参加する技能競技会を行いました。各職域の代表者が指定されたコースを運転し、安全装具の着用、事前確認の徹底、作業の正確性などを競い、役員や部門長が審査しました。



交通安全街頭立ち会い

交通安全部が主体となって、交通事故ゼロの日(0が付く日)に交通安全街頭立ち会いを行っています。朝の通勤時間に、本社事務所周辺の交差点で社員が幟を持ち、ドライバーにシートベルトの着用や交差点での一旦停止など、交通ルールの徹底を呼びかけています。



社会貢献

フジトランスグループは経営理念に「社会・地域に貢献する」ことを明記し、創業間もない頃からステークホルダーと連携して社会貢献に励んできました。その活動は、SDGsが定める17の目標とも合致します。

被災地支援

2021年12月にアメリカ南部で発生した竜巻により、ケンタッキー州が甚大な被害を受けました。そこで、(株)フジトランス コーポレーションとアメリカ法人のFUJITRANS U.S.A., INC.は、被災者の生活再建の一助として、州政府に義援金15,000US\$を寄付しました。

児童福祉施設支援

(株)フジトランス コーポレーションは、毎年12月に名古屋市内の児童福祉施設にクリスマスケーキなどを寄贈しています。

2021年は合計6カ所の施設にクリスマスケーキの他、プリンやパンなどをお贈りし、施設のクリスマス会で役立てていただきました。新型コロナウイルス感染症に配慮し、直接お渡しすることはできませんでしたが、配送業者を通じて多くの児童らに届けることができました。

健康

社員が心身ともに健康であることは、事業を続ける上で重要です。そのため、労働安全衛生法を遵守して社員がいきいきと働けるよう安全な職場づくりに励んでいます。また、定期的に健康状態を把握するとともに、社員に健康に関する情報を得られる場を提供しています。

方針

労働安全衛生方針

- 働く人の負傷および疾病を防止し、安全で健康的な職場を提供する。
 - すべての職場でリスクアセスメントを実施し、労働安全衛生リスクの除去又は低減に努める。
 - ストレスチェックの結果を活用し、働く人の健康障害防止と職場環境の改善を図る。
 - 働く人との協議および参加を図り、良好なコミュニケーションのもと、全員参加の労働安全衛生活動を実践する。
- 労働安全衛生リスクおよび労働安全衛生機会への影響を評価し、重要な項目については、技術的かつ経済的に可能な範囲で目標を定める。
- 労働安全衛生関係法令、社内基準およびその他の要求事項を順守し、より一層の労働安全衛生管理レベルの向上に努める。
- 労働安全衛生マネジメントシステムを確実かつ適切に実施し、社員の蓄積された知識と技能を織り込み、継続的な安全衛生水準の向上を目指す。



具体的な取り組み

健康相談会・健康セミナー

健康に不安を抱える社員に対し、個別健康相談の機会を設けています。社員は、健康診断の結果や精神的な困りごとを相談できるようになっています。

また、毎年、社員向けに健康セミナーを催しています。2021年度は「体力チェックを通じて知るあなたの身体年齢」、「ストレス溜め込んでいませんか?～マインドフルネスのススメ～」、「血液で分かる健康状態～血糖値・血中脂質のお話～」をテーマに開催しました。

ストレスチェック

年に一度、全社員に対してストレスチェックを行っています。ストレスチェックは、心理的な負担の程度を把握するための検査で、労働安全衛生法で実施が義務付けられています。受検結果は心身のストレス反応、仕事のストレス要因、周囲のサポートの3つの領域で集計・数値化され、傾向の詳細とアドバイスと合わせて受検者本人に返されます。

2021年度は、全体の81.1%が受検しました。社員は、受検結果を確認し、自身の状態を把握するきっかけにしました。

感染症予防と対応

新型コロナウイルスの感染症対策は、社員の健康の維持と事業継続において重大な課題です。そのため、経営トップを長とする感染症対策本部を常設し、予防と対策に努めています。また、社員と情報を共有し、勤務時間以外でも対策を取るよう促しています。

[主な感染防止対策]

- 換気・手洗い・うがい・マスク着用の徹底
- 3密の回避
- オンライン会議の活用
- 同居家族を含む健康管理

環境 Environment

基本的な考え方

フジトランスグループは、経営理念に定めた「環境にやさしい活動」を体現するための指針として環境方針を策定し、事業活動を行う地域や海洋環境への負荷の低減、生物多様性の保護に努めています。

方針

環境方針

- 事業活動に関係する会社と協調し、省資源・省エネルギーおよび廃棄物の抑制を図り、環境汚染の予防に努める。
- 環境に関する法規・協定、その他の合意事項の遵守はもとより、必要に応じて自主基準を定め、環境保全を推進する。
- 目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、環境に関する社内システムの維持・継続的改善に努める。
- 環境教育・広報活動を実施し、全社員への環境方針の周知と環境に関する意識向上を図る。
- 地域社会との対話を大切に、地域における環境保全活動を積極的に展開する。

環境マネジメントシステム

環境方針に基づいて、事業所や船舶の一部でISO14001環境認証を取得しています。毎年、内部監査および外部審査を行い、マネジメントシステムが適正に行われていることを確認しています。

[ISO14001 認証取得サイト一覧]

| 会社 | 事業所・所有船舶 |
|--------------------|---|
| (株)フジトランス コーポレーション | <ul style="list-style-type: none"> ● 本社 ● 九号地分室 ● 金城オペレーションセンター ● 空見荷扱所 ● 金城荷扱所 ● 豊橋支店 ● RO/RO船「ふじぎ」 ● RO/RO船「ふがく丸」 ● RO/RO船「蒼翔丸」 ● RO/RO船「清和丸」 |
| 鹿児島船舶株 | 名古屋事務所 |

環境保全の実践

社有林の保全

当社事業の柱の一つである内航海運業にとって、海は重要な事業フィールドです。そして、その海に栄養分を供給する河川の上流にある山林もまた、当社にとって大切な環境です。

当社は森林を健全に保ち、生物多様性を保全するため、北海道の共和町に177haの森林を所有しています。当社のマスコットキャラクターの愛称から名付けた通称「フジツブの森」は、取得時点で樹木の薄い場所が含まれていました。そのため、CO₂の吸収効果も期待して人工林として整備し、天然林と併存させています。また、新入社員が環境教育の一環で訪れ、毎年植樹しています。(2020年度以降は感染症対策のため中止)

この森林は、地元森林組合や地方公共団体と連携して持続可能な森林として保全し、国際的な森林認証制度「SGEC※」の認証取得を目指しています。

※SGEC:Sustainable Green Ecosystem Council。一般社団法人 緑の循環認証会議が持続可能で適切な管理がされている森林だと認証する制度。



フジツブ

グリーン購入

業務に必要な物資の調達基準として、グリーン購入を採用しています。

また、当社が発行する社内報などの印刷物に使用する紙を順次、FSC認証紙に変更しています。2021年度は印刷物に占めるFSC認証紙の採用率が87.1%まで向上しました。

※FSC(Forest Stewardship Council) 認証:適切な森林管理を認証する国際的な制度。



FSC認証マーク

プラスチックストローの変更

プラスチックストローやレジ袋などに由来するプラスチックごみは、河川を通して海洋に大量に流れ込み、自然界に深刻な影響を与えています。また、海中で分解してマイクロプラスチックになり、海洋生物が摂取すると、食物連鎖を通じて人体にも影響を及ぼすことが懸念されています。問題の本質はごみの捨て方にありますが、製品を提供する大手企業をはじめ、社会的に脱プラスチックの動きが活発になっています。

こうした流れを受け、本社社員食堂で使用しているプラスチックストローを紙製ストローに変更しました。食堂で出たごみは分別して適切に処理していますが、社会問題を身近に感じるために、小さなことから取り組みを始めています。プラスチックごみの排出量削減にもつながっています。



ISO周辺美化活動

ISOの環境美化活動の一環で、本社周辺を清掃しています。本社に所属する各部署から参加者を募り、敷地の周りや最寄駅である名古屋港駅の周辺の歩道を対象にごみを集めて回ります。

本社以外のISO認証拠点でも、それぞれ定期的に周辺の清掃を行っています。



足船を利用した水面清掃

名古屋港内で現場間の移動に使うボート(「足船」)に乗り、水面を漂うごみを拾う活動を行っています。各本部の代表者が本社事務所にほど近い名古屋港ガーデンふ頭、自社内航船舶の拠点である潮見ふ頭のQ2・BQ・BQ2岸壁、ガーデンふ頭に注ぐ堀川の下流域をボートで巡り、浮遊するごみをタモ網で集めました。



カーボンオフセットクレジット 調達

国際社会が協調して取り組むカーボンニュートラルの取り組みは、官民を問わずさまざまな形で進められています。自社内航船舶の運航などによりCO₂を排出する当社もまた、例外ではありません。しかし、CO₂の排出量を削減する重要な取り組みの一つであるエネルギーの転換は、技術的な課題が大きく容易ではありません。

そこで当社は、CO₂の相殺のため、カーボンオフセットクレジットを調達しています。調達するクレジットは、基本的に森林由来のもので、河川を通じて海につながる森林を間伐などで適切に整備することによってCO₂の吸収を促すとともに、林業の支援も意識しています。

運河の水質改善

使い終わった使い捨てカイロを活用して河川の水質を改善する活動に取り組み始めました。

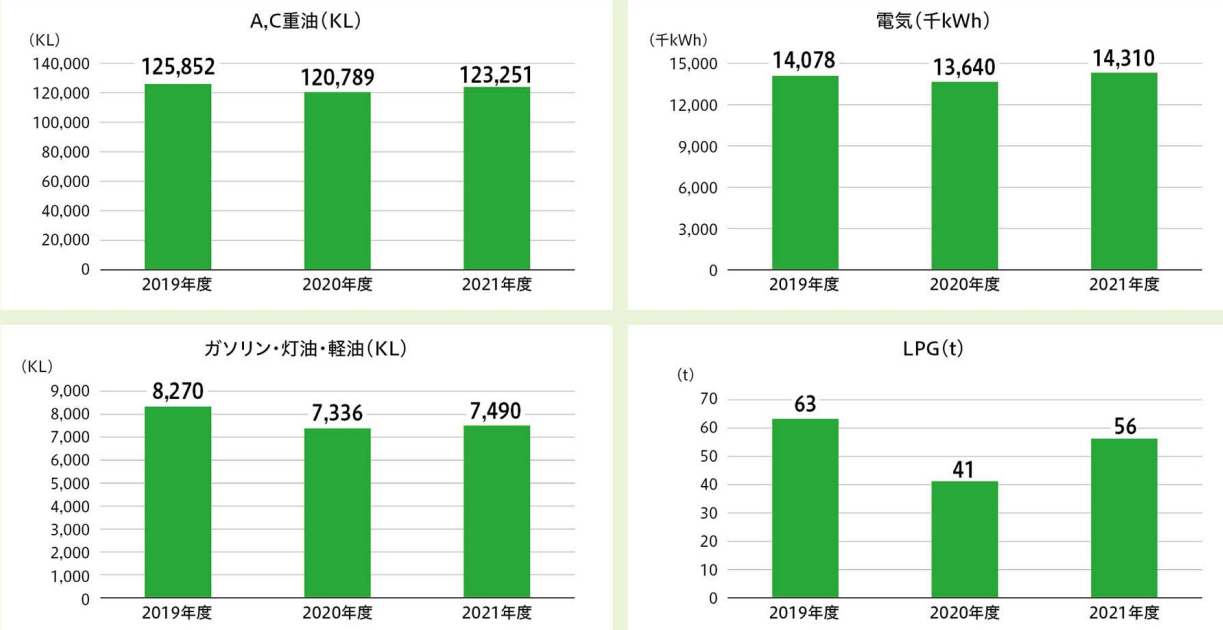
冬季の作業中に使用した使い捨てカイロは、これまで各自治体のルールに従って捨てていました。それを会社で回収し、カイロの中身を取り出して「鉄炭団子」を作り、水質改善に利用します。この研究をしている東京海洋大学と当社・トヨタ海運(株)との三者間で共同研究契約を締結しました。水質改善の実施場所は、名古屋港と名古屋駅付近を南北に結ぶ中川運河です。この運河は昭和初期に開削され、名古屋港から市中心部へ物資を水上輸送するための物流軸として、トラックによる陸上輸送が主流になるまで利用されてきました。関係団体と連携し、2022年度に鉄炭団子の設置を開始します。



環境データ

環境方針に基づいて各種施策を実践するにあたり、現状と施策の進捗状況を把握するため、環境負荷データを調査・管理しています。本社のほか、国内・海外の関連会社を対象に、主にエネルギー使用量を可視化しています。(対象関連会社 国内:14社、海外:11社)

[エネルギー消費量]



[パワートレイン別 社用車台数比率 (株フジトランス コーポレーション単体)]

| パワートレイン | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| ガソリン車 | 59.6% | 60.7% | 63.0% |
| HV | 38.0% | 37.0% | 32.4% |
| EV | 0.0% | 0.0% | 0.5% |
| PHV | 2.3% | 1.9% | 4.2% |
| FCV | 0.5% | 0.5% | 0.5% |

※構成比率は少数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。